

令和2年度岩手県幼稚園等教育研究協議会

幼児教育と小学校教育に おける学びの接続を生かした 教育課程の編成と教育活動の 在り方について

文部科学省初等中等教育局幼児教育課
幼児教育調査官 小久保篤子

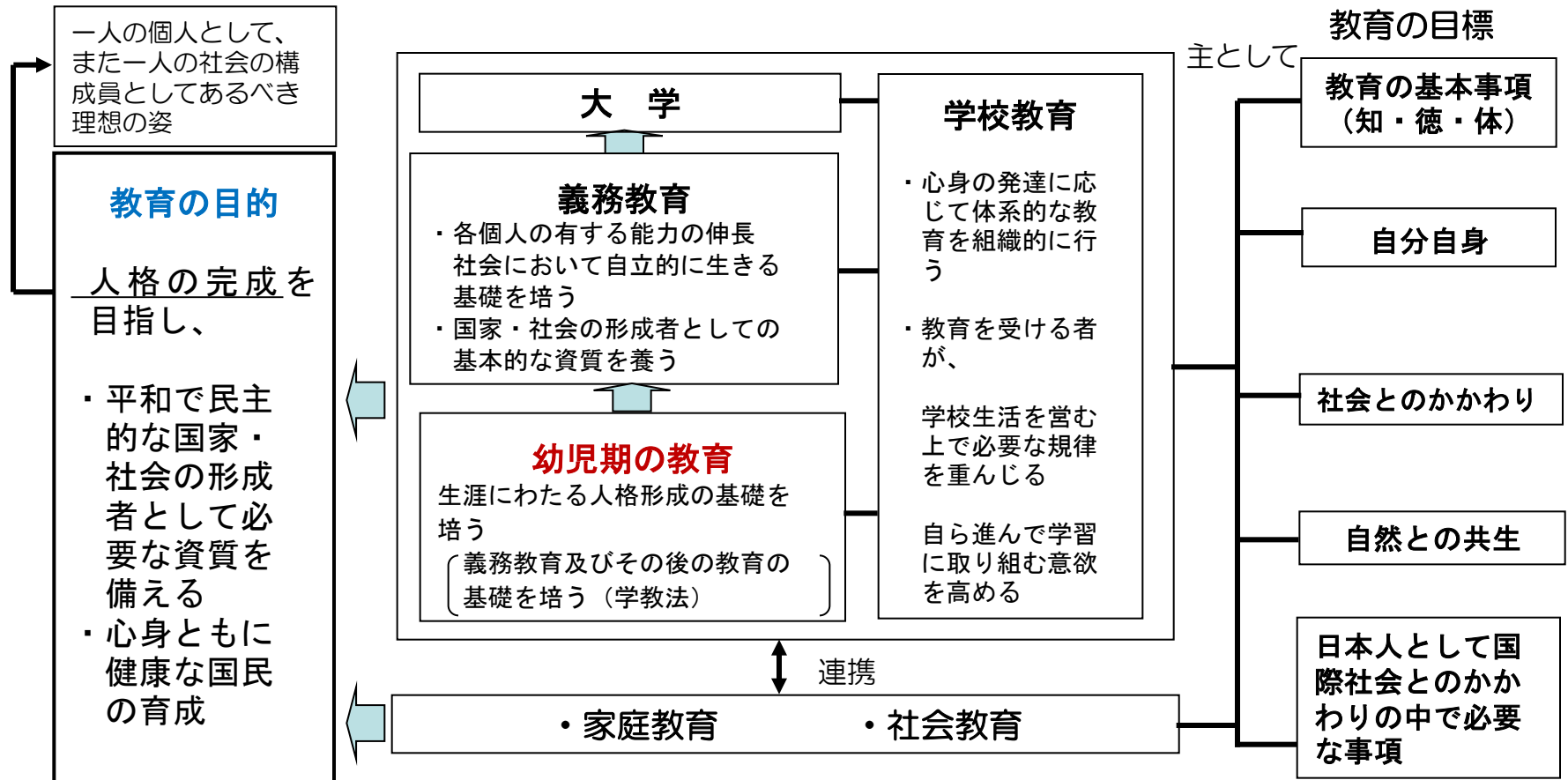
令和2年8月17日

幼児期の教育と小学校教育の理念は、 連続性・一貫性をもって構成

- 教育基本法に基づき、人格の完成、すなわち個人として、また社会の構成員としての理想の姿を追求することを目的
- 教育基本法によると、学校教育では心身の発達に応じて、体系的な教育が組織的に行われなければならない

<参考> 教育基本法の体系

- ・教育の中で必要となる事項は主として、教育の基本事項（知・徳・体）、自分自身、社会とのかかわり、自然との共生、日本人として国際社会とのかかわりの中で必要な事項からなる。
- ・学校は、幼児期から大学までこれらの教育を体系的かつ組織的に行うもの。



※「幼児期の教育」・・・当該教育のうち、幼稚園担当部分（保育所、認定こども園の教育機能部分を含む）として使用。それ以外の教育は家庭教育、社会教育に含む。

「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」平成22年11月11日幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議 より

教育基本法に基づき、学校教育法では、発達の段階を踏まえ、それぞれの目的や目標を規定

→幼小で教育の理念等は同じだが、発達の段階に配慮した違いは、当然、生じる

【学校教育法】

第22条 幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。

第29条 小学校は、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施すことを目的とする。

第30条第2項 前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

【目標の位置付け】

- 幼稚園では、「～を味わう」、「～を感じる」などのように、いわばその後の教育の方向付けを重視する。

幼稚園には、学校教育法施行規則に、卒業等の認定に関する規定がない。
なぜ、幼稚園では、「到達目標」とはしていないのか。

- 小学校では、「～ができるようにする」といった具体的な目標への到達を重視する。

学校教育法施行規則

第57条 小学校において、各学年の課程の修了又は卒業を認めるに当たっては、児童の平素の成績を評価して、これを定めなければならない。

⇒小学校では、学校教育法第30条第2項において、「基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」とある。

【内容、時間の設定や指導方法等】

○幼稚園

- ・ 幼児期の教育は環境を通して行うこと、つまり幼児を取り巻く人的（教師自身も含む）・物的要素全てを通して幼児を導くことで、幼児の生活や経験からの学び、自発的な活動を重視している。幼児が遊び込むことができる環境を構築し、幼児の主体的な活動を促す教師の適切な援助によって遊びは深まり、遊びの中で幼児は自分の課題を発見・追究するようになり、幼児のもつ課題意識は高まっていく。

なぜ、幼児期の教育では、次のことなどを重視しているのか。

- ・ 環境を通して
- ・ 遊び
- ・ 総合的
- ・ 幼児一人一人の特性に応じて

例えば、主体的な活動を重視していることは、幼稚園も小学校も同じ。では、まったく同じ活動なのか。違いはないのか。

○小学校

- ・ 小学校教育においては、各教科等から構成される時間割に基づく学級単位の集団指導が原則となる。ここでは、教師が教育すべき内容を具体化し効果的な指導を行うことにより、児童が目標に到達することができるようにすることが重要な課題となる

幼稚園教育の基本

「環境を通して行う教育」

環境の中に教育的価値を含ませながら、
幼児が自ら興味や関心をもって環境に取り組み、
試行錯誤を経て、
環境へのふさわしい関わり方を身に付けていくこと
を意図した教育

幼稚園教育の基本

重視する事項

- 1 幼児は安定した情緒の下で自己を十分に発揮することにより発達に必要な体験を得ていくものであることを考慮して、幼児の主体的な活動を促し、**幼児期にふさわしい生活が展開**されるようにすること。
 - 教師との信頼関係に支えられた生活
 - 興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活
 - 友達と十分に関わって展開する生活
- 2 幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、**遊びを通して**の指導を中心として、第2章に示すねらいが**総合的に達成**されるようにすること。
- 3 幼児の発達は、心身の諸側面が相互に関連し合い、多様な経過をたどって成し遂げられていくものであること、また幼児の生活経験がそれぞれ異なることなどを考慮して、**幼児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導**を行うようにすること。

幼児教育において育みたい資質・能力の整理

小学校
以上

知識・技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力・人間性等

※下に示す資質・能力は例示であり、遊びを通しての総合的な指導を通じて育成される。

知識・技能の基礎

(遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになるのか)

思考力・判断力・表現力等の基礎

(遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか)

- ・ 基本的な生活習慣や生活に必要な技能の獲得 ・ 身体感覚の育成
- ・ 規則性、法則性、関連性等の発見
- ・ 様々な気付き、発見の喜び
- ・ 日常生活に必要な言葉の理解
- ・ 多様な動きや芸術表現のための基礎的な技能の獲得
- 等

- ・ 試行錯誤、工夫
- ・ 予想、予測、比較、分類、確認
- ・ 他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさ
- ・ 言葉による表現、伝え合い
- ・ 振り返り、次への見通し
- ・ 自分なりの表現
- ・ 表現する喜び 等

遊びを通しての総合的な指導

- ・ 思いやり ・ 安定した情緒 ・ 自信
- ・ 相手の気持ちの受容 ・ 好奇心、探究心
- ・ 葛藤、自分への向き合い、折り合い
- ・ 話合い、目的の共有、協力
- ・ 色・形・音等の美しさや面白さに対する感覚
- ・ 自然現象や社会現象への関心
- 等

学びに向かう力・人間性等

(心情、意欲、態度が育つ中で、いかにによりよい生活を営むか)

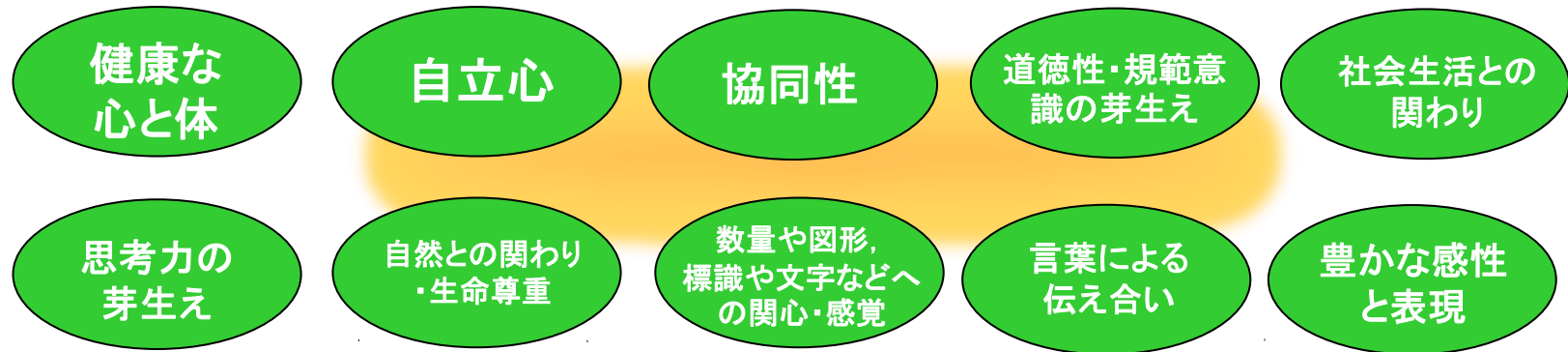
・ 三つの円の中で例示される資質・能力は、五つの領域の「ねらい及び内容」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から、主なものを取り出し、便宜的に分けたものである。

環境を通して行う教育

幼児教育

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

○ 5領域のねらい及び内容に基づいて、各幼稚園で、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼稚園教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿であり、特に5歳児後半に見られるようになる姿である。



○ 幼稚園の教師は、遊びの中で幼児が発達していく姿を、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いて捉え、一人一人の発達に必要な体験が得られるような状況をつくったり必要な援助を行ったりするなど、指導を行う際に考慮することが求められる。

○ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導されるものではないことに十分留意する必要がある。幼児の自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性に応じて、これらの姿が育っていくものであり、全ての幼児に同じように見られるものではないことに留意する必要がある。

○ 5歳児に突然見られるようになるものではないため、5歳児だけでなく、3歳児、4歳児の時期から、幼児が発達していく方向を意識して、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことに留意する必要がある。

【幼稚園教育要領】

第2 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- 1 幼稚園においては、生きる力の基礎を育むため、この章の第1に示す幼稚園教育の基本を踏まえ、次に掲げる資質・能力を一体的に育むよう努めるものとする。

(略)

育てたいのは資質・能力（一体的に育む／努める）

- 2 1に示す資質・能力は、第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体によって育むものである。

この活動を通して、資質・能力は育まれていく

- 3 次に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮するものである。

資質・能力が育っていくと、幼児の姿（「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等）としてあらわれてくる。

第1章 総則 第3 教育課程の役割と編成等

5 小学校教育との接続に当たっての留意事項

- (1) 幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにするものとする。
- (2) 幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

○育成を目指す資質・能力について幼児期の教育から高等学校教育までを通じて系統的に示されている

○幼稚園教育において育まれてきた資質・能力は、小学校以降の生活や学習の基盤

○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿

→具体的な姿を伝えることで、幼児の育ちが理解されやすい

→小学校においては、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすることとされている。

【幼稚園教育要領】

第2 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- 1 幼稚園においては、生きる力の基礎を育むため、この章の第1に示す幼稚園教育の基本を踏まえ、次に掲げる資質・能力を一体的に育むよう努めるものとする。

(略)

育てたいのは資質・能力（一体的に育む／努める）

- 2 1に示す資質・能力は、第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体によって育むものである。

この活動を通して、資質・能力は育まれていく

- 3 次に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮するものである。

資質・能力が育っていくと、幼児の姿（「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等）としてあらわれてくる。

幼稚園教育要領

第1章 総則 第3 教育課程の役割と編成等

5 小学校教育との接続に当たっての留意事項

- (1) 幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにするものとする。

解説 P 90

一部抜粋

- 幼稚園は、学校教育の一環として、幼児期にふさわしい教育を行うものである。**その教育が小学校以降の生活や学習の基盤ともなる。**小学校においても、生活科や総合的な学習の時間が設けられており、学校教育全体として総合的な指導の重要性が認識されているといえる。
- 学校教育全体では、いかにして子供の生きる力を育むかを考えて、各学校の教育課程は編成されなければならない。**幼稚園教育は、幼児期の発達に応じて幼児の生きる力の基礎を育成するものである。**特に、幼児なりに好奇心や探究心をもち、問題を見いだしたり、解決したりする力を育てること、豊かな感性を発揮したりする機会を提供し、それを伸ばしていくことが大切になる。幼児を取り巻く環境は様々なものがあり、そこでいろいろな出会いが可能となる。その出会いを通して、更に幼児の興味や関心が広がり、疑問をもってそれを解決しようと試みる。幼児は、その幼児なりのやり方やペースで繰り返しいろいろなことを体験してみること、その過程自体を楽しみ、その過程を通して友達や教師と関わっていくことの中に幼児の学びがある。**このようなことが幼稚園教育の基本として大切であり、小学校以降の教育の基盤となる。**幼稚園は、このような基盤を充実させることによって、小学校以降の教育との接続を確かなものとすることができる。
- 幼稚園教育において、幼児が小学校に就学するまでに、**創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うことが重要である。**(略) 主体的な態度の基本は、物事に積極的に取り組むことであり、そのことから自分なりに生活をつくっていくことができることである。さらに、自分を向上させていこうとする意欲が生まれることである。**それらの基礎が育ってきているか、さらに、それが小学校の生活や学習の基盤へと結び付く方向に向かおうとしているかを捉える必要がある。**また、小学校への入学が近づく幼稚園修了の時期には、皆と一緒に教師の話の聞いたり、行動したり、きまりを守ったりすることができるように指導を重ねていくことも大切である。さらに、共に協力して目標を目指すということにおいては、幼児期の教育から見られるものであり、小学校教育へとつながっていくものであることから、幼稚園生活の中で協同して遊ぶ経験を重ねることも大切である。

幼稚園教育要領

第1章 総則 第3 教育課程の役割と編成等

5 小学校教育との接続に当たっての留意事項

- (2) 幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

解説 P 92 一部抜粋

- 幼稚園では計画的に環境を構成し、遊びを中心とした生活を通して体験を重ね、一人一人に応じた総合的な指導を行っている。一方、小学校では、時間割に基づき、各教科の内容を教科書などの教材を用いて学習している。このように、幼稚園と小学校では、子供の生活や教育方法が異なる。このような生活の変化に子供が対応できるようになっていくことも学びの一つとして捉え、教師は適切な指導を行うことが必要である。
- 小学校においては、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすることとされている。
- 子供の発達と学びの連続性を確保するためには、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、幼稚園と小学校の教師が共に幼児の成長を共有することを通して、幼児期から児童期への発達の流れを理解することが大切である。すなわち、子供の発達を長期的な視点で捉え、互いの教育内容や指導方法の違いや共通点について理解を深めることが大切である。幼稚園では計画的に環境を構成し、遊びを中心とした生活を通して体験を重ね、一人一人に応じた総合的な指導を行っている。一方、小学校では、時間割に基づき、各教科の内容を教科書などの教材を用いて学習している。このように、幼稚園と小学校では、子供の生活や教育方法が異なる。このような生活の変化に子供が対応できるようになっていくことも学びの一つとして捉え、教師は適切な指導を行うことが必要である。

(参考) 小学校学習指導要領

第1章 総則

第2 教育課程の編成

4 学校段階等間の接続

教育課程の編成に当たっては、次の事項に配慮しながら、学校段階等間の接続を図るものとする。

(1) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。

また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

※下線部：主な改訂箇所

(参考) 小学校学習指導要領

第2章 各教科

第5節 生活

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (4) 他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高め、低学年における教育全体の充実を図り、中学年以降の教育へ円滑に接続できるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期における遊びを通した総合的な学びから他教科等における学習に円滑に移行し、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるようにすること。その際、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。

※国語、算数、音楽、図画工作、体育、特別活動においても、上記と同様の記載がされている。

- 小学校低学年は、学びがゼロからスタートするわけではなく、幼児教育で身に付けたことを生かしながら教科等の学びにつなぎ、子供たちの資質・能力を伸ばしていく時期。
- 小学校教育においては、生活科を中心としたスタートカリキュラムを学習指導要領に明確に位置付け、その中で、合科的・関連的な指導や短時間での学習などを含む授業時間や指導の工夫、環境構成等の工夫（※）も行いながら、幼児期に総合的に育まれた資質・能力や、子供たちの成長を、各教科等の特質に応じた学びにつなげていくことが求められる。

※「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」（平成２２年１１月）においては、スタートカリキュラム編成上の留意点として、幼稚園、保育所、認定こども園と連携協力すること、個々の児童に対応した取組であること、学校全体での取組とすること、保護者への適切な説明を行うこと、授業時間や学習空間などの環境構成、人間関係づくりなどについて工夫することを挙げている。

事例を通して考えてみる ～幼児と児童の交流①～

5歳児と小学校1年生の交流（七夕製作）。交流活動では、幼児児童それぞれにねらいを設定するとともに、共通のねらいを設定。交流活動は2学級に分かれて別日程で実施し、事前の話し合い→準備→交流活動→振り返りを行った。最初の交流活動では、児童が一人一人の幼児に寄り添い丁寧に教えながら七夕飾りを製作している様子が見られ、幼児も落ち着いて活動できていた。

最初の交流活動を幼稚園と小学校の教師が一緒に振り返ってみると

- ・楽しく活動をしており、ねらいもおおむね達成できていた
- ・小学校の先生の指示がとても的確でスムーズな交流活動ができた

しかし、次第に「自分でできることをやってもらっている幼児にとって交流の中での学びは何か」といった意見もでてきたので、幼児・児童それぞれにおける学びについて意見交換を行った。その際、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとして活用した。活動を通して、主として次のような姿が見られたとの意見がでた。

- ・いろいろな人と親しみをもって関わる姿や、どのように関わったらよいかということを考える姿（社会生活との関わり）
- ・自己紹介をする、相手に作り方を教える、願い事を伝える、話をしっかり聞くなどの姿（言葉による伝え合い）
- ・4つの種類の製作を時間内で作るという課題に対して、見通しをもつ力（健康な心と体）

話し合ううちに、幼稚園の教師からは次のような意見があった。

- ・指示により安心して活動できるが、幼児が考える余地があれば、違う立場の人との関わり方を考える姿（社会生活との関わり）、時間の使い方やどの製作をするか等見通しをもって行動する姿（健康な心と体）がみられるのではないかと
- ・幼稚園では幼児同士が助け合ったりしているが、交流会では全員がお世話される側の印象。幼児が能動的に行動する姿や児童と一緒に目的に向かって取り組む姿があまり見られなかった(自立心、協同性)
- ・願い事の短冊は書けないところのみ手伝ってもらう方がいいのではないか（数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚）

小学校の教師からは次のような意見があった。

- ・製作が得意であったり、リーダーシップをとれたりする幼児がいることがわかった
- ・同学年の中ではなかなか力を出せないが、今日は自信をもって活動できていた(自立心)
- ・年下の子に何かしてあげたいという気持ちからがんばろうとする姿も見られた(社会生活との関わり)

事例を通して考えてみる ～幼児と児童の交流②～

さらに、教師の子供への関わり方についても話し合いが及んだ。

小学校の教師からは次のような意見があった。

- ・幼稚園の教師は、認めたり、共感したりと子供たちにその場で直接的な関わりをすることが多いように思った。児童には自分なりに考えさせ、結果を自分で受け止めさせたい

幼稚園の教師からは次のような意見があった。

- ・幼稚園では、認めて伸ばす、共感するということを大切にしている
- ・幼児は遊んでいるそのときに楽しさや満足感を味わえないと次回へと気持ちが続かないので早めに援助しやすいかも

そして、子供たちの発達を踏まえた対応の違い等に戸惑ったとの意見があった。次回の交流活動では互いの指導をよく見合い、互いの教育についてもっと理解し合う必要があること、子供たち同士の交流を大事にするため、子供たちがつくり上げようとする世界をもっと大切することを確認し合った。また、教師は1年生に「～してください」などの指示を控え、4種類全ての製作を目指すのではなく、何をどれだけ作るかも子供たちに考えさせた。

次の交流活動を幼稚園と小学校の教師が一緒に振り返る中で、次のような意見があった。

- ・前回同様、児童や幼児が交流活動を通していろいろな人と親しみをもちて関わる姿やどのように関わったらよいかということを考える姿（社会生活との関わり）、相手に作り方を教える、話をしっかり聞くなどの姿（言葉による伝え合い）、見通しをもって活動する姿（健康な心と体）などが見られた
- ・子供たち自身でグループ内の関係づくりができるようにし、活動も各グループに任せることにした結果、「『皆で』とか『私たち』という言葉が聞かれ、一つのめあてにむかって、児童も幼児も一緒になって取り組む姿が見られた(協同性)。そのことによって、達成感も見られた(自立心)
- ・輪飾りの数を数えたり、長さを測ったりする活動にも広がったり、幼児にとっては文字を書く機会もできた(数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚)

この事例を通して、例えば、次のようなことが分かった。

- ・交流活動の振り返りの積み重ねが子供たちに対してより意味のある活動になるかどうかのポイント
- ・幼稚園の教師は、「この交流会の中で、子供たちに楽しさや満足感を味わってほしい、そして楽しく活動する中で学んでほしい」と考えて認める声掛けや共感する声掛けをする。小学校の教師は、「交流会という授業の中で、児童自身が自分なりに課題に対して考えて行動し、結果を自分たちなりに受け止め振り返ることが大切」と捉え、子供たちの達成度を客観的に理解しようとしている
- ・幼児と児童の交流は、双方の子供たちの育ちの上で有意義であるだけでなく、双方の教師にとっても同じ場面の子供の育ちの姿を話題にしていくことで、それぞれの学校種の指導方法や教育観などを理解する良い機会となっている

事例を通して考えてみる ～スタートカリキュラム～

幼児期から児童期にかけて、自分との関わりを通して、総合的に学ぶ子供の発達の特性を踏まえ、次の2つの視点から、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫を図り、下記のスタートカリキュラムを考えた。

- ・生活科「学校探検・校庭探検」を中心に他教科のねらいを考えて、合科的・関連的に単元を構成する。
- ・直接体験を通して、生活上必要な技能等を身に付けられるようにする。

○円滑な接続のための話し合い ～スタートカリキュラム編成の基本姿勢～

保育参観を行った後に、幼稚園と小学校の教師が意見交換を行い、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、子供の成長の姿や幼稚園の教師の働き掛けの意図について共有し、入学してくる子供の様子を捉え、スタートカリキュラムのねらいを設定した。

意見交換した内容の例

- ・保育参観では園庭の木の実で色水遊びをする幼児の姿が見られた。「ジュースができたよ」とコップに入れた色水を嬉しそうに持ってきた幼児に対し、教師は「すてき、いいね」と幼児の気持ちに共感するだけでなく、「こんな色が出たのね」「〇くんが、発見したの?」「先生も作ってみようかな」など、幼児が新しい発見や色の不思議さに気付くようにしたり、色水の材料や作り方にも目が向くようにしたりする意図が教師の声掛けにあったことを説明した。
- ・幼稚園での生活の様子や幼児が親しんでいる活動（例：何度も読み聞かせのリクエストがある絵本、幼児の好きな手遊び歌）についても紹介した。
- ・幼稚園では登園したら主体的に自分のしたい製作などの活動に取り組んでいる生活や、そのための環境の構成として低いテーブルや幼児が自由に使うことができる道具や材料が用意されていること、教師がいなくても幼児同士で教え合いながら作ったり遊んだりする育ちの姿があることを小学校の教師に伝えた。

○週案の作成 ～スタートカリキュラム第2週の週案「はじめまして学校ー自分でできるようになるまでー」を作成～

- ・入学した1年生が学校の様子を知り、自分の力で楽しく意欲的に学校生活を送ることができる姿を期待して計画を作成
- ・生活科「学校探検・校庭探検」を中心として他教科のねらいを踏まえた、合科的・関連的に単元を構成したスタートカリキュラムを、具体的に実践できるように計画
- ・この時期の児童の発達の特性を踏まえ、園での生活や親しんでいる活動も取り入れる配慮や工夫

【週案を作成する際に意識して取り入れたこと】

- ・朝の時間の「なかよしタイム」では幼稚園で親しんだ手遊び歌、読み聞かせ
- ・好きな材料で自由に絵をかいたり、製作ができる低いテーブル
- ・複数の教科を組み合わせで展開する合科的・関連的な指導
- ・新しい友達と交流ができる学習活動（グループ活動、名刺交換）
- ・ゆったりとした時間の中で学習活動が進められる2時間続きの学習活動
- ・10～15分程度の短い時間を弾力的に活用した時間割（モジュール）

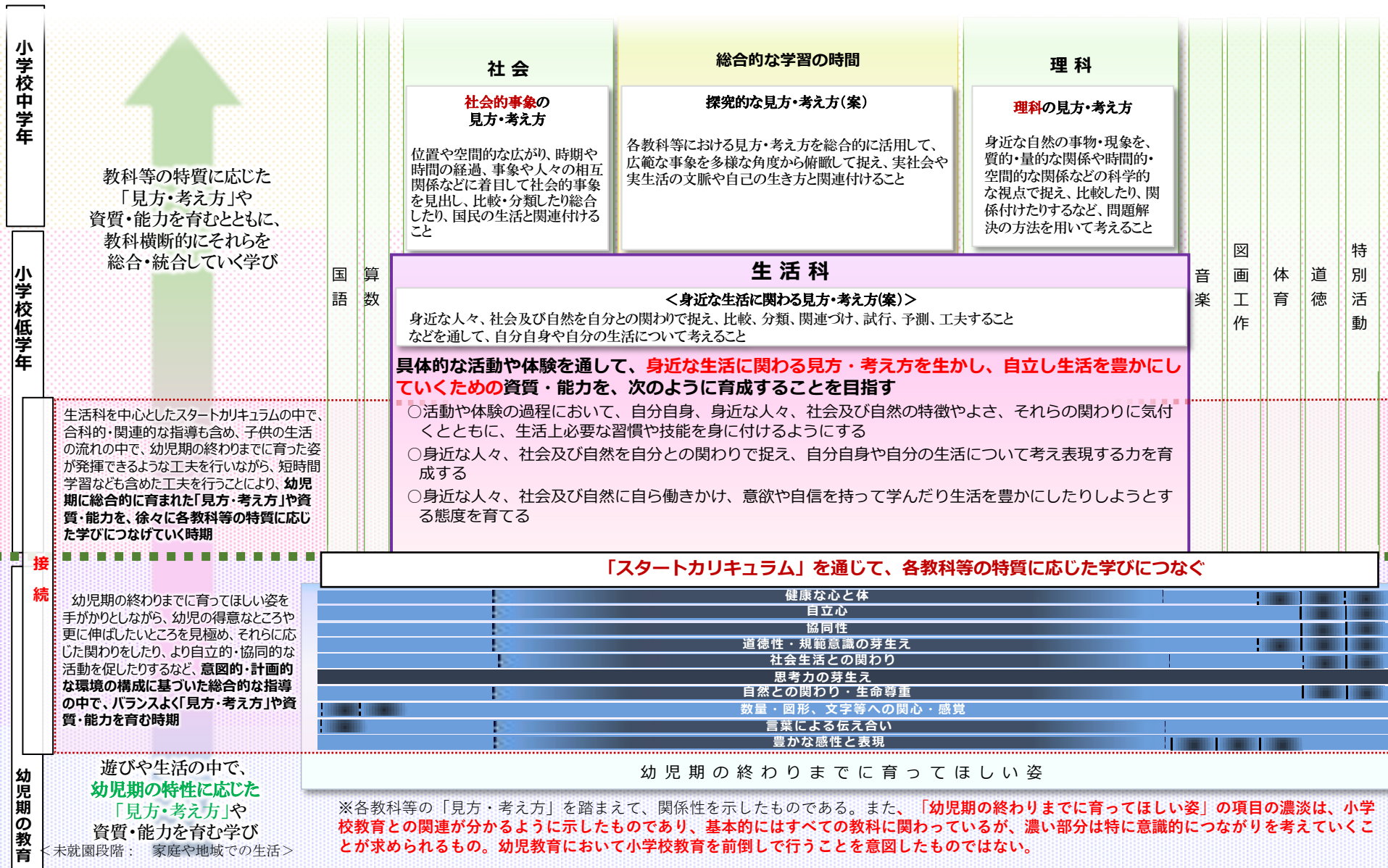
事例を通して考えてみる ～生活科 アサガオ栽培～

児童たちがこれまでの経験を想起しながら安心して意欲的に活動できるようにし、1年生の学習をゼロからのスタートとはせず、栽培した経験のあるアサガオやそれを使った遊びについて、同じことの繰り返しではなく学びの質を高めていくように工夫

例えば

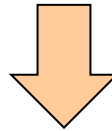
- ・単元を構想するに当たり、通っていた幼稚園等や家庭から、植物の栽培やそれを生かした遊び、製作などに関する情報を収集し、幼児期の経験や学びを栽培活動につなげられるよう工夫した。
- ・幼児期では、思い思いの遊びを通して学んできた児童たちが、学校においては、学習対象と主体的に関わりながら活動できるよう工夫した。
- ・児童の育ちを把握した上で単元を構想することで、多くの児童の興味や関心が高まるような導入にしたいと考え、単元の導入場面では、一人一人の思いや願いを基に、学級全体の実現したい思いや願いにつなげていく計画し、学習計画を児童たちと一緒に立てることで、一人一人が単元全体の見通しをもって学習を進められるようにした。なお、このように伝え合い交流する場を単元において意図的・意識的に設定することで、各児童の気付きの質を高めることにもつなげていこうと考えた。
- ・児童の育ちや学びはつながっていることを踏まえ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を参考に児童の経験をうまく引き出し、学びの質を高めていけるよう意識した。
- ・この単元では、一人一鉢、自分のアサガオを栽培することを基本。学習の環境が重要であることも踏まえ、例えば、それぞれのアサガオの鉢は、日常的に関われるよう児童の動線を踏まえ1年生の玄関や教室の前に置いたり、遊びや製作の際には、材料や道具の種類や量、配置に配慮したりした。また、入学間もない時期であることから、特に一人一人の取組の違いに十分配慮することも大切にした。これらの学習環境については、「環境を通して行う教育」を基本とする幼稚園教育を参考にするようにした。
- ・体験に応じて表現しやすいように観察カードを工夫したり、生活科の時間以外にも、朝の会や帰りの会を活用し、児童同士でいつでも情報交換できる機会をつくったりした。観察の際には、見るだけでなく、聞いて・嗅いで・触れて…諸感覚を働かせることを促し、たとえば、比べたり、見付けたりなど、観点を提示することも意識した。
- ・観察で気付いた事実にとどまらず、自分の気持ちと結び付けて表現できることも大切。これらの単元を通じた言語活動や、振り返りの過程での活動を通して、アサガオの世話をして生長を見守った自分自身の成長や自信につなげたいと考えた。

スタートカリキュラムのイメージ



幼小接続に向けて

- 幼児期の発達の特性を踏まえれば、就学までに〇〇を身に付けさせる、〇〇ができるといった「到達目標」的な考え方はふさわしくない。（「方向目標」的）
- 幼稚園が小学校の準備教育となったり、小学校が幼稚園教育を一方的に取り入れたりするものでもない。

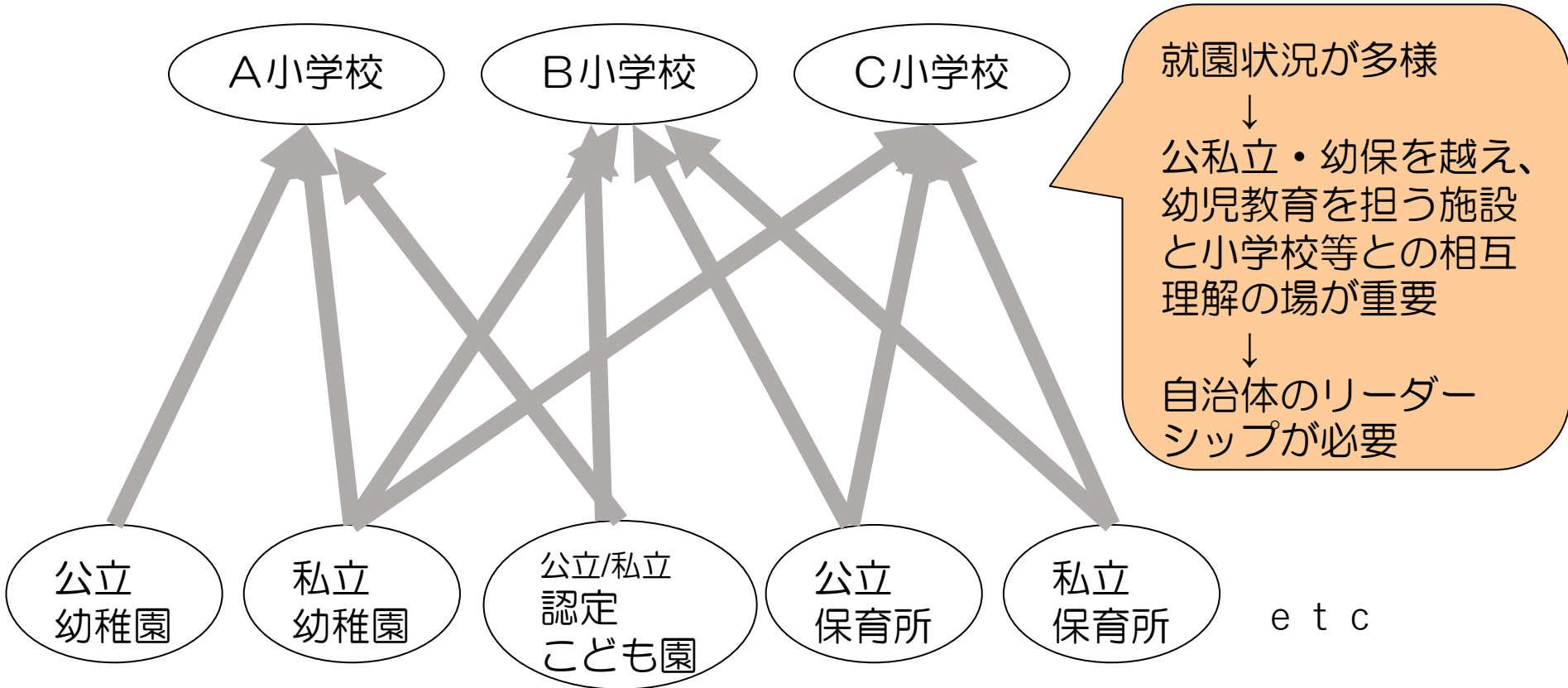


- 学校教育法では、発達の段階を踏まえ、それぞれの目的や目標を規定している。それぞれの学校種の特性について相互理解を深め、
 - ・ 幼稚園は小学校入学後の児童の発達をも見通した上で、幼児の発達する姿を捉えて、幼児が発達に必要な体験ができるようにすることが大切
 - ・ 小学校は、幼稚園等において育まれた資質・能力を踏まえた教育活動を行い、中学校へとつなげていくことが大切

幼小接続のために留意したいこと

小学校：幼稚園等において育まれた資質・能力を踏まえた教育活動

※個に応じた教育活動を基本とし、到達目標とはしていない幼稚園において、活動や体験を一律とすることはふさわしくないことに留意する必要がある。

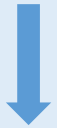


幼稚園等：幼稚園等は小学校入学後の児童の発達をも見通した上で、幼児の発達する姿を捉えて、幼児が発達に必要な体験ができるようにする必要
幼児期の教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながる

各園や小学校では組織的、計画的、継続的に

- 幼稚園教育から小学校教育へのつながりを確保する教育課程を編成・実施

- ・教職員間の交流などを通じて両者の教育について理解を深める
- ・両者が抱える教育上の課題を共有する



園長・校長のリーダーシップの下、組織的に計画的・継続的に取り組むことが重要

- 相互理解を深め、連携・接続を推進していくには、長期的かつ柔軟な視点で発達や学びの連続性を捉え、その上で発達の段階などに留意しつつ、子供のよさを生かしながら、資質・能力を育み続けるという視点が重要。

そのためには、教師には次のような力が求められます。

- ① 幼稚園教育と小学校教育の教育課程・指導方法の違い、子供の発達や学びの現状等を正しく理解する力
- ② 幼稚園の教育を担当する教師は小学校の教育を見通す力
小学校の教育を担当する教師は幼稚園の教育を見通す力
- ③ ①②を踏まえ、今の教育活動を構成・実践する力
- ④ 他の教師や保護者と連携・接続のために必要な関係を構築する力

- 幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続のために必要な力を個々の教員が身に付けていくとともに、園長・校長のリーダーシップの下、組織的に計画的・継続的に取り組んでいくための体制を整備することも必要。

- ・幼稚園教育と小学校教育との接続に関する担当者を決める
- ・年間を通して計画的に実施する 等

教師の学びや体験を蓄積し、連携・接続を発展させていくことが大切